

# ミルセラ注シリンジ投与方法について

2012.07  
県連薬事委員会

## 1. はじめて腎性貧血治療する時のミルセラ注シリンジ投与方法

→1回25 $\mu$ gを2週に1回、皮下または静脈内投与する

## 2. 維持用量

→貧血改善効果が得られたら1回25～250 $\mu$ gを4週に1回、皮下または静脈内投与する

## 3. 切り替え時の1回投与量の目安

ネスプ	ミルセラ
30 $\mu$ g	→25 $\mu$ g
40 $\mu$ g	→50 $\mu$ g
60 $\mu$ g	→50 $\mu$ gまたは75 $\mu$ g
120 $\mu$ g	→100 $\mu$ gまたは150 $\mu$ g
180 $\mu$ g	→150 $\mu$ gまたは200 $\mu$ g

## 4. 投与経路

→原則 皮下投与とする。

→やむを得ず静注する場合は、無駄なく全量注入できるよう工夫すること。

## 5. 切り替え時の注意点（1回投与量について）

※切り替え前3ヶ月のHb値の推移を考慮して下さい

### ○Hb値が安定 もしくは増加傾向の症例

→ネスプ注射液とほぼ同量のミルセラ注シリンジに切り替え

例) ネスプ注射液 60 $\mu$ g→ミルセラ注シリンジ 50 $\mu$ gまたは75 $\mu$ g

ネスプ注射液120 $\mu$ g→ミルセラ注シリンジ100 $\mu$ gまたは150 $\mu$ g

### ●Hb値が減少傾向の症例

→ネスプ注射液よりも大きい規格のミルセラ注シリンジに切り替え

例) ネスプ注射液 60 $\mu$ g→ミルセラ注シリンジ 75 $\mu$ gまたは100 $\mu$ g

ネスプ注射液120 $\mu$ g→ミルセラ注シリンジ100 $\mu$ gまたは150 $\mu$ g

## 6. ネスプ注射液 2週に1回 から ミルセラ注シリンジ月1回 への変更時の注意点

→ネスプ注射液2回分の投与量よりも多いミルセラ注シリンジを投与

例) ネスプ注射液 30 $\mu$ g $\times$ 2 → ミルセラ注シリンジ 75 $\mu$ gまたは100 $\mu$ g

→切り替え後のHb値を確認し、適宜増減する